

『万葉古代学研究所彙報』

平成十四年度

三月 一日 第一回委託共同研究につき、公募を開始。三月末日

締め切り。

友の会講座で、劉雨珍研修員が「中国人の目から見た万葉集の世界」を講演。

三月 二日 奈良女子大学連携・万葉講座「シンポジウム・三山の性をめぐって」を開催。講師は坂本信幸奈良女子大学教授・毛利正守大阪市立大学教授・松尾光総括研究員（以下研究員と略す）。

三月一〇日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「大伴家持と『万葉集』」を講義。

三月二五日 「万葉古代学研究所年報」第一号を発刊。

奈良県高等学校国語文化会で、松尾光研究員が「漢風と国風」を講演。

三月二七日 海外研修員の劉雨珍氏が帰国。

三月二八日 葛城税務署職員研修講座で、井上さやか主任研究員

（以下研究員と略す）が「『万葉集』の愉しみ」（於・葛城税務署）を講演。

平成十五年度

四月一三日 第一回委託共同研究の選定のため、審議会を開催。

「奈良県における万葉古代学関連研究の史的研究」

（研究代表者・坂本信幸奈良女子大学教授）を採択。

四月一四日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦主任研究員（以下研究員と略す）が「ウケヒ（誓約）神話」を講義。

四月二〇日 万葉古代学研究所主宰第一回共同研究「ユーラシア大陸と万葉集Ⅰ」の第七回研究会を開催。共同研究員は、研究所員のほか、岩城雄次郎日タイ文学者交流センター主宰・王暁平帝塚山学院大学教授・金岡基常葉学園大学教授・辰巳和弘同志社大学助教授・辰巳正明國學院大学教授・月本昭男立教大学教授・内藤磐早稲田大学高等学院教諭。研究発表は辰巳和弘氏、招聘講師は、広瀬量平京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長。

五月 一日 第一回委託共同研究につき、「奈良県における万葉古代学関連研究の史的研究」（研究代表者・坂本信幸奈良女子大学教授）と決定して委託契約を締結。

五月二二日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦研究員が「天の岩屋戸神話」を講義。

- 五月一日 明日香村文化協会講演会で、井上さやか研究員が「明日香の旧き京師」（於・明日香村公民館）を講演。
- 五月二八日 第一回万葉古代学研究所講座「『万葉集』と仏教思想」を開催。講師は寺川眞知夫所長
- 六月一日 第二回委託共同研究につき、公募を開始。九月末日締め切り。
- 六月九日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦研究員が「八俣大蛇神話」を講義。
- 七月六日 万葉古代学研究所主宰第一回共同研究の第八回共同研究会を開催。研究発表は松田信彦研究員。招聘講師は、高橋孝信東京大学教授。
- 七月二一日 地域活性化に係る奈良県・奈良市及び奈良女子大学連絡協議会に、「万葉故地の確定・データ化と歴史的景観再現事業」の説明のため、山田貴文業務部長・松尾光研究員が出席。
- 七月二四日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦研究員が「稲羽素戔神話」を講義。
- 七月二一日 「万葉故地の確定・データ化と歴史的景観再現事業」（奈良女子大学地域貢献特別支援事業）の第一回合同研究会。
- 七月二六日 第二回万葉古代学研究所講座「『万葉集』と民俗学」を開催。講師は上野誠副所長
- 七月二七日 親子万葉教室で、上野誠副所長が講師を務める。
- 八月一日～二日 第二回夏期セミナーを開催。講師・演題は、寺川眞知夫所長「磐之媛の嫉妬」・佐藤隆中京大学教授「万葉集と氏族文化圏」・神田典城学習院女子大学教授「古事記・日本書紀と風土記」・松尾光研究員「元正女帝の即位をめぐる」・佐伯順子同志社大学教授「遊行女婦の歌をめぐる」・村田右富実大阪女子大学教授「挽歌史の構想」。
- 八月二一日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦研究員が「八千矛の神の物語」を講義。
- 八月二四日 親子万葉教室で、松尾光研究員・松田信彦研究員が講師を務める。
- 八月二五日 「万葉故地の確定・データ化と歴史的景観再現事業」（奈良女子大学地域貢献特別支援事業）の第二回合同研究会。講師は山内英正甲陽学院高校教諭。
- 九月一日 海外研修員として勾艶軍氏（天津大学助教）を迎える。
- 九月六日 第三回万葉古代学研究所講座「『日本書紀』はどうやってできたか」を開催。講師は松田信彦研究員。
- 九月二七日～二八日 万葉古代学研究所主宰第一回共同研究の第

九回・第一〇回研究会を開催。研究発表は井上さやか
研究員。招聘講師は田畑千秋大分大学教授・坪山豊氏
〈奄美歌謡伝承者〉・劉雨珍帝塚山学院大学客員教授。

九月一九日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究
員が「明日香をよむ①」を講義。

一〇月二四日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究
員が「明日香をよむ②」を講義。

一〇月二六日 万葉古代学研究所主宰第一回共同研究の第一一回共
同研究会を開催。研究発表は内藤磐早稲田大学高等学
院教諭・松尾光研究員。

十一月一日 「万葉故地の確定・データ化と歴史的景観再現事業」
(奈良女子大学地域貢献特別支援事業)の第三回合同
研究会。ミワ山調査のため、明日香・稲淵方面を实地
見学。

十一月八日 第四回万葉古代学研究所講座「語られる神話とホカ
ビト」を開催。講師は三浦佑之千葉大学教授。

十一月二二日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究
員が「平城をよむ」を講義。

十一月二二日 葛城税務署職員研修講座で、井上さやか研究員が
「葛城と『万葉集』」(於・葛城税務署)を講演。

十一月三〇日 第二回委託共同研究の選定のため、審議会を開催。

「平城万葉の形成とその基盤に関する総合的研究」
(研究代表者・梶川信行日本大学教授)を採択。

十二月七日 友の会講座で、寺川真知夫所長が「古代の新嘗祭」
を講演。

親子万葉教室で、井上さやか研究員が講師を務める。

十二月二三日 「万葉故地の確定・データ化と歴史的景観再現事業」
(奈良女子大学地域貢献特別支援事業)の公開シンポ

ジウム「万葉特別フォーラム 万葉故地を考える」開
催(於・奈良女子大学)。講師は坂本信幸奈良女子大
学教授・山内英正甲陽学院高校教諭・村瀬憲夫近畿大
学教授・新谷秀夫高岡市万葉歴史館主任研究員・富田
敏子全国万葉協会会長(当館友の会事務局長)の五人。

十二月二四日 「万葉故地の確定・データ化と歴史的景観再現事業」
(奈良女子大学地域貢献特別支援事業)の公開シンポ
ジウム「万葉故地シンポジウム 泊瀬朝倉宮をめぐつ
て」開催。司会は松尾光研究員。講師は坂本信幸奈良
女子大学教授・前園実知雄奈良芸術短期大学教授。シ
ンポジウムには館野和己奈良女子大学教授・井上さや
か研究員が加わる。

十二月一九日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究
員が「吉野をよむ」を講義。

一月二日 万葉古代学研究所主宰第一回共同研究の第一二回共同研究会を開催。研究発表は月本昭男立教大学教授。

一月二六日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「地名と〈景〉」を講義

一月二八日 第五回万葉古代学研究所講座「淳仁天皇の后をめぐる」を開催。講師は松尾光研究員。

二月 九日 友の会共催の「木簡をよむ」で、松尾光研究員が「国の成立を語る木簡」を講義。

二月二四日 笠田公民館講座で、井上さやか研究員が「こんにちは、『万葉集』」（於・和歌山県／笠田公民館）を講演。

二月二五日 親子万葉教室で、松田信彦研究員が講師を務める。

二月二九日 第六回万葉古代学研究所講座「山部赤人と中国文学」を開催。講師は井上さやか研究員。

◆専任研究員のおもな業績（平成十五年三月～平成十六年二月）

松尾光

〔研究論文〕

○「古代における原と山野」（『万葉古代学研究所年報』一号）、

平成十五年三月。

〔その他〕

○「藤原京の謎」（『史話日本の古代』第六卷所収）、平成十五年

三月。

○「唐への国書はどこで作られたか」（『歴史研究』五〇三号）、平成十五年四月。

○「広い官道はどう使われたか」（『歴史研究』五〇四号）、平成十五年五月。

○「貨幣の出現」（『史話日本の古代』第七卷所収）、平成十五年五月。

○「光明皇后の祈り歌」（『磔』二〇〇号）、平成十五年六月。

○「畝傍の性は相手しだい？」（『万葉を愛する会だより』三八号）、平成十五年八月。

○「今日は三角縁神獣鏡の日？」（『月刊考古学ジャーナル』五〇六号）、平成十五年九月。

○「元正女帝はなぜ即位できたか」（『歴史研究』五〇八号）、平成十五年九月。

○「淳仁天皇にはなぜ皇后がないのか」（『歴史研究』五〇九号）、平成十五年一〇月。

○「天皇号の成立は何を物語るか」（『歴史研究』五一一号）、平成十五年一二月。

○「そこから何がいえるか」（『万葉を愛する会だより』三九号）、平成十六年一月。

松田 信彦

〔研究論文・目録〕

○『万葉集』編纂資料についての一考察」（『万葉古代学研究所年報』一号）、平成十五年三月。

○共著「資料編2」（『古事記受容史』笠間書院刊）、平成十五年五月。

○分担執筆『古事記研究文献目録 雑誌論文篇Ⅱ』（国書刊行会刊）、平成十五年六月。

○分担執筆『古事記研究文献目録 単行書篇Ⅱ』（国書刊行会刊）、平成十五年六月。

○担当執筆「倉野憲司旧蔵『出雲国風土記』」（『古事記学会創立五十周年記念展示書目解題』）、平成十五年六月。

〔その他〕

○「描かれた万葉歌／大宰府の梅花」（『天飛ぶ』五号）、平成十五年三月。

○「万葉百科システムのすすめ」（『万葉図書・情報室便り』六号）、平成十五年七月。

○「万葉集の秋」（『万葉図書・情報室だより』七号）、平成十五年十一月。

井上さやか

〔研究論文〕

○「万葉集の『沫雪』」（『同朋文学』三一号）、平成十五年三月。

○「物色』の倭製―沫雪の場合―」（『万葉古代学研究所年報』一号）、平成十五年三月。

○「倭歌における『物色』について―山部赤人の春雑歌四首―」（『天平万葉論』翰林書房刊）、平成十五年四月。

〔研究発表〕

○「赤人長歌の地名表現」（於・美夫君志会全国大会）、平成十五年六月。

○「赤人の春日野歌」（於・美夫君志会二月例会）、平成十六年二月。

〔その他〕

○「描かれた万葉歌／懐かしい風景」（『天飛ぶ』七号）、平成十五年十一月。